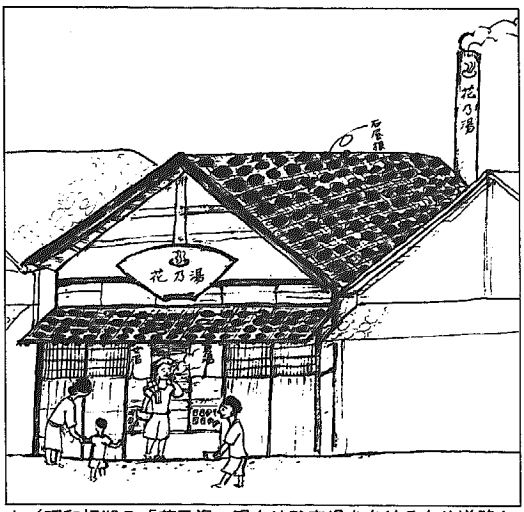


# 黒埼町の風呂屋(二)

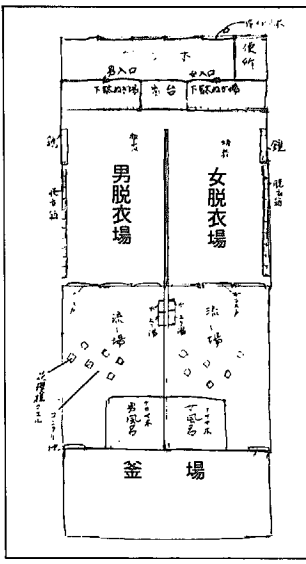
町史編さん課

## 黒埼町の風呂屋(二) 今も営業を続ける「花乃湯」の 創業当時から終戦直後まで。

「花乃湯」開業  
現在、町に残るただ一軒の  
公衆浴場となった「花乃湯」  
(新田町)は、屋号を勘十郎



上/昭和初期の「花乃湯」。現在は駐車場をあけるため道路から引込んで建てられている。左/当時の「花乃湯」平面図。浴槽は幅1.2m、長さ2mくらいでクサマキで作られていた。流し場は13㎡くらいでコンクリ地に花模様のタイルが図のようにはめこまれていた。



ろんと呼び、明治三十年の開業以外、九十一年を数える古い浴場である。当主の白井弘さん(大正十一年一月生まれ)はその三代目にあたる。

白井家は、弘さんの曾祖父の代まで鳥原村で農業を営み、代々村総代を勤める古い家柄だった。弘さんの祖父勘一さんの代に、それまで新田町にあった横木某経営の湯屋が近々廃業することを知らず、湯屋株(湯屋を経営する権利)を譲り受けた。その湯屋が取りこわされると、その跡に風呂場と脱衣場だけの棟を建て「花乃湯」の名で湯屋を開業した。

開業した当初は白井家は住居を移転せず、それまで通り家族は鳥原に住み、勘一さんとその子の勘三郎さん(弘さんの父親)が新田町の「花乃湯」まで通って営業していたのである。湯をわかす釜場が風呂場の隣にかけおろしに作った小屋の中にあつて、そこに釜番人の休み場があり、そこに寝泊りしながらの営業だった。

明治末期になって白井家はようやく住居・農作業小屋を浴場の裏に移したそうだから、

かかなりの間、釜場通いが続いたことになる。

(当時の「花乃湯」の建物については上図を参照下さい)水くみ今昔

「花乃湯」が営業を始めた当初は、中ノ口川の水を桶にかたねて運んだ。川のすぐそばではあったが、堤防の上り降りは大変だった。

大正に入つて、手もみポンプ「ガチャポン」を使って川水をくむようになり、いくらか水くみは楽になった。

昭和三年ころになると、勘三郎さんが農業用の電源を利用して、簡易水道方式で川水の水くみ上げを行うようになり、水くみの苦労はなくなった。しかし、この方式になったあとも、非常の場合を考え手もみポンプを取りはずさなかつたので、弘さんは小学生のころ、よくポンプもみをさせられたという。

風呂の燃料と営業

「花乃湯」では開業当初から、湯をわかす燃料に石炭と薪を併用した。石炭や薪は火力が強いので、熱い湯をすぐに浴槽へ送る場合どうしても必要だった。しかし、燃費に問題があり、その節約を考えた勘三郎さんは大正の初め、家の裏手の川端にガス井戸を掘った。天然ガスの併用によって節約はかなりできたが、

石炭・薪に比べ火力が弱いため、主として翌日に備え新たに浴槽に張り込んだ水を暖めておくのに使われた。昭和に入つて、太平洋戦争が始まった翌年の十七年、それまで津川方面から船で運ばれてきた薪が入らなくなり、石炭の供給もストップしてしまった。

昭和十八年の一月になると一日湯を立てると次の二日間休業しなければならなくなった。こうした営業状態は十九年、二十年と続いた。

しかし、戦時体制の強化によって石炭供給の全くなかったこの時期に、たとえ二日おきであっても営業することができたのは、勘三郎さんが石炭を隠しておかされた。当時、石炭は軍需物資として何より重要視されていたので、隠しているのを見つかれば石炭はもちろん没収、その上経済犯として厳罰に処せられるのだ。

密かに川から陸揚げした石炭を、夜、町から離れた鳥原の田んぼへ運んで野積みし、その上に藁のとばをかけて隠したのである。(とば：雨よけ用のわら製の屋根材)

戦中・終戦直後の経営

二十年一月は六日立て二十五日の休業、二月は全休。四月から六月まで、また一日立て二日休み。ところが七月、八月は毎日たてられている。これは、七月から山田に軍の飛行場建設が始まり、その関係者の入浴のため、燃料の特配があつたという。

終戦後の二十年九月は、それでも一日おきにたてており、十月から十二月十九日までまた二日おきになつていった。

この十二月十九日から燃料が石炭中心から電力に変わったと日誌に記されている。これは、戦後の労働力不足で石炭や薪といった燃料が手に入らなかつたためである。なお、大野の他の風呂屋では燃料にふきぬかを使つてはいたが、ふきぬかを使う釜は蒸気機関車みたいにくまぬかをちよくちよく入れてやらなければならず、たいへん手間がかつた。「花乃湯」では農業もやっていたため、手間のかかるふきぬかを使わなかつたのである。

こうして二十一年一月から十二月まで電力を主に石炭を併用しながら、月に二日の休業日以外は営業を続けられるようになった。

しかし、二十二年に入ると電力事情が悪くなり、二月や七月から十二月にかけては一日おきの営業で、十二月は七日しか営業できなかった。

執筆・宮田栄門

# 街かど

## 募集しています

- ・短歌
  - ・俳句
  - ・詩
  - ・随筆
  - ・イラスト
  - ・写真
  - ・まんが
  - ・その他
- 町への意見や要望も受け付けます  
文章は苦手というかたは連絡を取材に行きます  
匿名もよいです  
投稿・連絡先は黒埼町大野2843-1  
広報「街かど」係  
377-3101

## 短歌

黒埼短歌会

夕陽背に何を語るか電線のみよ馬達は正確な列になす  
阿部 浄子  
連れ立ちて湯の宿に來し短歌の友の浴衣姿のりりしく似合う  
大谷 モト  
崖の上に行くかもしばをパスに見つ胸の高まりしばらく止まず  
笠原 セツ  
鉄柵に寄りて眺むる清津峡千丈の岩眼の前にあり  
宮田 ミイ  
清津峡の遊歩道けわしく老の身には再び来る日なしと語ろう  
波辺 ウタ  
今朝早く庭の若竹切りしとう茶室に青き結界置かる  
堀内 昌江  
短歌の友とたずねし津南の山の中に思いがけなくかもしかを見ぬ  
長谷川トヨ  
いずこより種飛び来しやなややかなもじずり一本庭に咲きたり  
泉井 ヨ子  
テレビにて民謡大会を見ついついの我等のしあわせを思う  
柏 直樹地

## 俳句

黒埼俳句会 静水選

児童数八人なる大赤沢小学校五人の先生とにわとりをかう  
小出美喜子  
亡き夫の布団夏陽にさらしつづ夫の句いて足止まりたり  
大矢 キイ  
むずかされる孫にハーマニカを吹きやればいつしか眠りし顔あどけなし  
金内 セツ  
八十路なる我健やかに静なり趣味持たてれば一日短し  
山田 卯八  
黒埼の特産なれば明け暮れをうから絵出て茶豆こぎ励む  
鷲尾 幸角  
橋脚の間に見ゆる堰の先梅雨曇る海白く展くる  
伊藤 一男  
官設の地神にたまたずむ心あり踊り手なるもみそぎなりとて  
永田 和子

## 俳句

黒埼俳句会 静水選

黒き梁その下集う盆の客  
睦 治  
手を叩く時よく揃う盆踊  
代 香  
菰に寝て寝て兄弟の夏休み  
し げ  
秋晴れや入道雲の白きこと  
一定  
鳥賊つりの灯に囲まわし佐渡の夜  
よしお  
新涼という涼しさに安堵感  
誠 伍  
川に添ひつづくかぎりの花芒  
正 二  
辻ごとに泉のありぬ奈良井宿  
吉 見  
鬼灯を含みし妻の目が笑い  
きよし  
信濃路や釜も揃いしそばの花  
悠 治  
良きしめりありて大根時き癒えぬ  
もと  
鍼治療あとのけだるき残暑かな  
文 雄  
吹奏禁止みて一息蟬しぐれ  
みどり

## 俳句

黒埼俳句会 静水選

帯目のあとにまた散る秋の花  
た か  
立派今年は大も低く咲き  
静 江  
かなかなの鳴き移りゆく夕扇  
みよし  
句集読む夫の寝息や虫の夜  
佐藤 キン  
大長く垂れる稲穂や官機り  
小林とし松  
新涼や峡にこだます鳥おどし  
今井 千代



## スポーツ大会

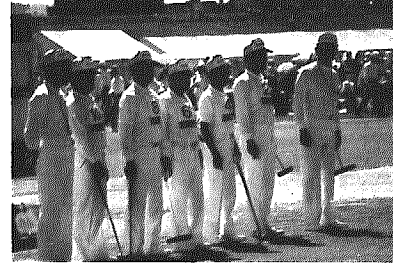
### 全国大会で銅メダル

ゲートボールの黒埼金巻チーム  
第4回全日本ゲートボール選手権大会(日本ゲートボール連盟主催)に新潟県代表として出場した黒埼金巻チームはみごとに3位に入賞しました。9月10日・11日、北海道旭川市で行われた大会には全国から144チームが集まり金巻チームは予選リーグで兵庫、山形、高知に大勝、決勝リーグでも佐賀、石川、埼玉、山梨に勝ち、島根に惜敗しました。

監督の永井守さん(46歳・金巻)は「各県の子選を含めると9400チームが出場し、その3位ですから驚いています。昨年の大会も出場し上位へ行けませんでしたか自信はつきました。強さの秘けつは一人一人の信頼だと思えます」、出場者は鈴木藤一、森田嘉夫、石田松夫、木口昭六、若林敏、玉木国作、佐藤静江の40代50代の人でゲートボール歴は5年から10年。皆さん、おめでとうございます。



永井監督



黒埼金巻チーム。大会は10月15日NHKでテレビ放送

## 外来語辞典

編集協力・中学通り自治会  
【レ】レクリエーション…休養、娯楽  
レコード…記録：音楽などを記録した円盤  
レザ…革：かみそり  
レジ…(レジスターの略)自動金銭登録器：会計係  
レシート…領収

レシーブ…球を受けること  
レジスタンス…抵抗  
レジャー…余暇  
レストラン…西洋料理店  
レセプション…歓迎会  
レター…手紙、文字  
レタリング…文字を図案化すること  
レックス…けいこ、練習  
レットル…商品にはる紙の札  
レッド…赤  
レディ

レディーメイド…貴婦人  
レトリック…修辭法  
レバー…肝臓：操縦かん  
レパートリー…得意な芸  
レビュー…評論  
レファレンスブック…参考書  
レファレンダム…住民投票  
レフェリー…審判員  
レフト…左  
レベル…水準  
レリーフ…浮き彫り

レンス…米を集めたり分散させたりするガラス機具  
レンタカー…貸し自動車  
レントゲン…X線(X線発見者の名前から)  
【ロ】ロー…低い  
ローカル…地方の  
ローズ…ばら  
ロースト…蒸し焼きの肉